

—訪問場所概要—

○梁川城跡

伊達氏11代持宗から14代植宗まで伊達氏の本拠の城。大永2年（1522）に植宗が陸奥国守護に補任され、南奥州における政治的中枢をになう場となる。伊達氏が本拠を米沢に移してからは、梁川は蒲生氏を経て上杉氏の領地と推移。城跡には上杉氏による石垣も残るが、伊達氏館跡の「心字の池」庭園跡が復元されている。城址跡の一部は、伊達氏梁川遺跡群として国の史跡。



○梁川八幡宮

伊達氏の氏神として鎌倉の鶴岡八幡宮の分霊を迎えて祭られ、伊達家の保護を受けた。ここに16歳の政宗が戦勝祈願したと伝えられ、政宗の正室・愛姫の受け渡し場所との逸話も残る。境内からは下を流れる「広瀬川（仙台の広瀬川の由来）」の向うに、大枝城址を望む。本殿は伊達市指定有形文化財。社殿東方にある別当寺の龍寶寺は、萱葺屋根の山門が見事。一帯は県指定の名勝。



○大枝城跡

応永元年(1394年)頃に伊達宗遠の三男、孫三郎宗行が分家して大枝村に住み、大枝氏を称した折、宗行によって築かれたと考えられている。17代政宗もここに陣を敷いたといわれ、政宗とは縁が深い。代々大枝氏の居城として続いたが、天正19年(1591年)伊達政宗の岩出山転封にともない、大枝氏も移り廃城となる。大枝氏はその後（大條と名を替え）転封を繰り返した後、政宗の命で坂元要害に移り現在に至る。標高74.3mの丘陵にあり、梁川を一望できる城跡。現在大半が果樹園となっているが、本丸部分が整備されている。本丸の東側には横堀状に土塁と空堀が南北に伸びており、本丸から北へ降りた所が二の丸とされ、山頂に通じる道が二重の堀切を貫通して延びている。この東部分が三の丸とされるが、現在は宅地。



○徳本寺

大枝村に住し大枝（後に大條）を名乗った、初代の孫三郎宗行が築いた大枝城の根小屋、もしくは隠居館と考えられている。戦時は山城の大枝城に詰め、平時はこの平地館を居住の場（根小屋）とした。現在は徳本寺が移されており、その境内地が館跡である。東西110m、南北134mの館跡は、周囲の土塁、堀跡の様子をよく残しており、平地館として最も整った姿を今も伝えている。大條氏の菩提寺である徳本寺は、大條氏に伴って複数の領地を移転し、最後の地である坂元にある。ここに移されている徳本寺は、菩提寺の創建時には徳本寺の末寺であったが、大條氏移転以降も現地（梁川）に残った。



○「楽寿亭」「御茶屋御殿」（御薬園内）

室町時代から代々の会津領主が愛した別荘地。会津松平藩の藩祖保科正之公が大名庭園として整備。二代藩主の正経は、疫病から領民を救い病気の予防や治療などに使用する薬草の研究のために薬草園を設ける。現在の庭園は、三代正容の時代、借景を取り入れた池泉回遊式の大名庭に大補修を加えた（江戸中期）。1932年(昭和7年)7月19日に国名勝に指定。茶室は2つある。亀島に建つ江戸中期建築「楽寿亭」（見学のみ）と、1696年代（元禄九年）築で明治期に増築された「御茶屋御殿」。見学者への呈茶の他、茶道体験や歴史講座などに利用されている。



○「麟閣」（りんかく）（鶴ヶ城内）

会津城主「蒲生氏郷」は、利休切腹（天正19年（1591））後、その茶道が途絶えるのを惜しんで、その子少庵を会津にかくまい、徳川家康とともに秀吉に千家の再興を願いでた。この時少庵が建てたのがこの茶室「麟閣」。戊辰戦争で会津藩が敗れ、明治のはじめに城内の建物が取り壊される際、茶人・森川善兵衛は、自宅へ移築し大切に保管。

その後、平成2年9月12日、会津若松市制90年を記念して、この氏郷・少庵ゆかりの茶室を後世へ伝えるため、鶴ヶ城内の元の場所へ移築。見学者への呈茶の他、氏郷の命日にちなんだ月例の茶会が開かれている。



* 茶室の利活用イメージ

電子紙芝居「大條家ゆかりの御茶室物語」から
制作：山元いっ茶組

大條家茶室

すてきな楽しいサロンに！

天保期、伊達家から大條家に下賜された
仙台藩で唯一残る、江戸時代の茶室
政宗が秀吉から賜ったものとの逸話
山元町の文化財